



平成15年7月2日
日本原子力発電株式会社

敦賀発電所1号機 第28回定期検査の状況について

(紛失した主給水逆止弁構成部品の調査状況)

当社、敦賀発電所1号機（沸騰水型軽水炉：定格出力35万7千kW）は、平成15年6月14日より第28回定期検査を実施しておりますが、6月23日、格納容器内に設置されている主給水逆止弁*1の分解点検を実施していたところ、弁本体を支える弁軸の両端に取り付けられている2個のワッシャー（外径56mm、内径32.5mmのリング状、ステンレス製）のうち、片方のワッシャーが紛失していることを確認しました。

また、ワッシャーと接する軸表面2箇所と残っていたワッシャーの内側が摩耗減肉していることを確認しました。

これまでに、当該弁近傍の主給水配管内の目視点検を実施しましたが、ワッシャーは発見されなかったため、範囲を拡大し紛失したワッシャーの調査を行うこととしました。

なお、本事象による環境への放射能の影響はありません。

*1 主給水逆止弁

原子炉圧力容器に送られる冷却材（給水）が流れる配管に取り付けられた弁で、給水の逆流を防ぐ機能を持つ。

(平成15年6月24日発表済み)

1. 調査状況

紛失したワッシャーについては、主給水逆止弁下流側（原子炉側）に流出したと考えられることから、原子炉圧力容器までの給水配管内や原子炉圧力容器内のシュラウドサポート上部について、超音波探傷検査や水中テレビカメラによる調査を行いました。調査の結果、原子炉圧力容器内の給水スパーージャフロウノズル内側に、ワッシャーと思われる物体があることを確認しました。

また、主給水系の他の同型弁（3台）について、分解点検を行った結果、ワッシャーや弁軸に最大約4mm程度の摩耗減肉が見られましたが、ワッシャーは正規の位置に取り付けられていることを確認しました。

今後、紛失したワッシャーと思われる物体の取り出し方法について検討するとともに、弁軸およびワッシャーが過度に摩耗した原因について調査します。

なお、物体を取り出す準備として、現在、炉内に装荷されているすべての燃料集合体（１９３体）の取り出し作業を本日から開始する予定です。

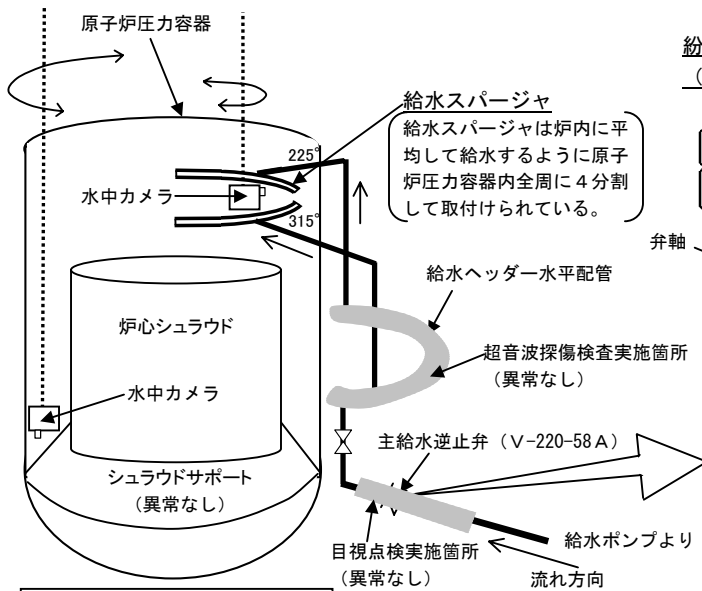
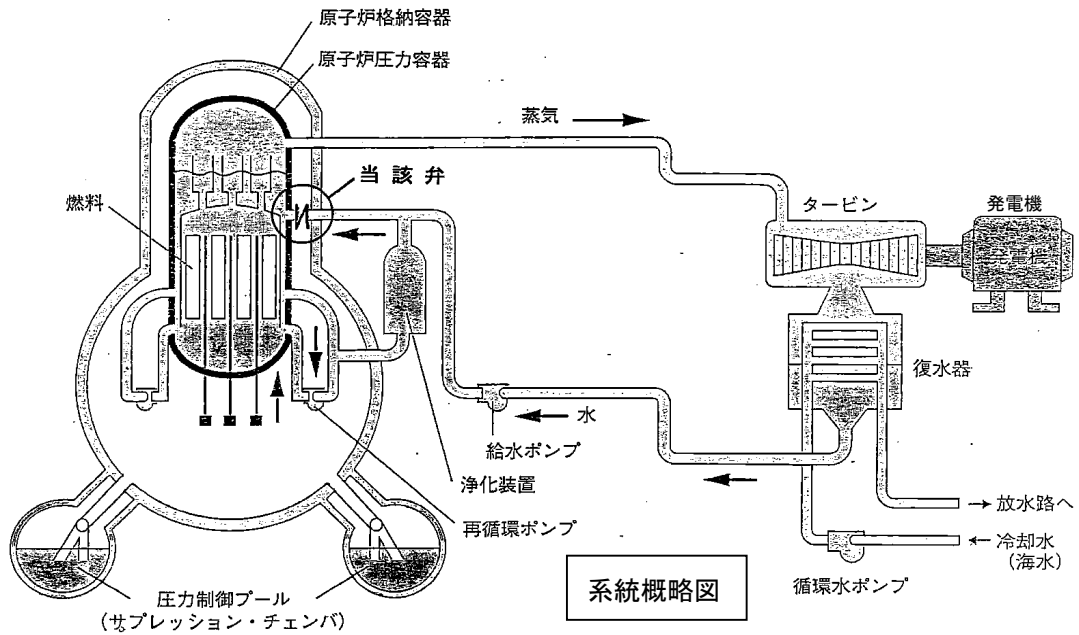
２．定期検査の今後の工程

今後、物体の取り出し作業により、当初予定していた定期検査期間の延長が必要となりますが、工程については現在検討中です。

以 上

添付資料 紛失した主給水逆止弁構成部品の調査状況

紛失した主給水逆止弁構成部品の調査状況



紛失したワッシャー
(外径: 56mm 内径: 32.5mm 材質: ステンレス)

